

PRESS RELEASE (2026/02/09)

九州大学筑紫地区地域連携推進チーム×大野城心のふるさと館 プレゼンツ

ここふるサイエンスカフェ Vol.17

洋上風力発電の成功のカギを握る「風の研究、風車ウエイク*研究」とは？

九州大学筑紫キャンパスと大野城心のふるさと館は、科学の面白さ、奥深さ、生活との結びつきなどについて、中高生をはじめ、どなたでも気軽に学んでいただくことを目的として、皆さんと考えながら科学への理解を深められる「サイエンスカフェ」を実施しております。

第17回目の講師は、九州大学応用力学研究所の 内田 孝紀 教授です。

【開催日】令和8年3月13日(金) 19:00~20:30

【場 所】大野城心のふるさと館 (大野城市曙町3-8-3)

【定 員】50名 ※申込多数の場合は抽選

【申込期限】令和8年3月1日(日)

※申込は大野城心のふるさと館HPにてご確認ください。

<https://www.onojo-occm.jp/li/190/cocofurusciencecafe.html>

※定員に達するまで受付を行います。締切日以降の参加可否については、大野城心のふるさと館へ直接お問い合わせください。



↑ 申込はこちらから

内田教授からひとこと:

洋上風力発電は、海の上(洋上)に風力発電機(風車)を設置し、海上に吹く風の力を利用して電気を生み出す再生可能エネルギーの一つです。日本政府は、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた切り札と位置づけ、積極的に推進していくこととしています。この洋上風力発電の成功のカギを握るのが「風の研究、風車ウエイク研究」です。

今回は、どうして「風の研究、風車ウエイク研究」が必要なのか、その重要性を分かりやすく解説します。



応用力学研究所 内田 孝紀 教授

当日は、精密な小型風車模型を使った風車ウエイクのデモ実験を行う予定です。

※風車ウエイクとは・・・風車の3枚の羽根が回転することに伴い、風車の風下側に形成される風速が低下し、風の向きが乱れている領域